

北信 CT 勉強会 参加報告

札幌医科大学附属病院 大橋芳也

みなさまこんにちは、札幌医科大学附属病院の大橋です。朝晩の冷え込みが一段と厳しくなり、吐く息が白く染まる季節となりました。体調を整えながら北海道の長い冬を乗り切りたいですね。

さて、私は先日、11月30日に長野市で開催された北信 CT 勉強会に参加させていただきましたのでご報告いたします。長野市へは北海道から飛行機と北陸新幹線を乗り継いで約5時間で到着しました。普段、新幹線に乗る機会が少ないこともあり、張り切って駅弁を購入し、紅葉に染まる山々を眺めながら移動しました。この勉強会は、長野赤十字病院の室賀代表世話人が務める地域に根差した勉強会で、若手の方が中心となり会を盛り上げていました。施設発表では、腹部造影 CT をテーマとした興味深い発表が多く、胃がん術前検査の撮影方法や 80kV と Deep learning 再構成を組み合わせた CTA 撮影法について活発なディスカッションが行われていました。特に印象に残ったのは長野赤十字病

院の北原氏から動脈後期相のタイミングと心胸郭比との関連についての発表です。従来から心機能と造影ピークの到達時間の相関は知られていましたが、血流循環速度により適正なタイミングを捉えきれない症例に対し、心胸郭比を用いて適正化を試みた内容でした。実際の運用方法についてお聞きしたところ、心拡大のある患者さんには動脈後期相の遅延時間の設定を15秒から20秒に変更しているとのことで、明日からすぐに実践可能な方法だと感じました。

特別講演1では、私が「腹部CT angiographyの撮影タイミング適正化」と題してダブルボーラストラッキングに関する内容をお話ししました。すでにダブルボラスを導入している施設から実際の運用方法についての質問をいただいたり、血管領域以外での応用に関心を持つ方がいらっしゃったりと、他施設での取り組みを感じる良い機会となりました。

特別講演2では、自治医科大学とちぎ子供医療センター小児画像診断部教授の松木充先生が「Commonな血管病変のCT診断」と題し、大動脈炎などの炎症性疾患を中心に症例を交えながら病態とその読影法を解説してくださいました。松木先生は4列CT時代から消化器領域の3DCTや非剛体補正などに造詣が深く、私の研究テーマも松木先生からヒントをいただいた経緯があり、今回

直接お話を伺えたことは大変貴重な経験でした。

懇親会には約 20 名が参加され、信州そばやそば飯など地元料理をいただきながら長野の皆さんと情報交換させていただきました。帰りには、テレビ番組で紹介されていた長野のソウルフードの「ソースカツ丼」を試してみたくなり、駅構内の有名店でお弁当を購入しました。期待通りのボリュームにソースが染みたキャベツが絶妙でとても美味しかったです。次の機会には、ヒレカツバージョンもぜひ試してみたいと思います。



長野駅前



名物「ソースカツ丼」